

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

メディアは圧倒的な政治的影響力をもっている。二〇世紀以降の政治的リーダーたちは、どのような政治体制であれそのことを強く意識し、政権の維持・強化や政策の実現のためにメディアを掌握しようとしてきた。メディアは、政治成果を強調し、国民意識を強め、政敵を抑圧・攻撃するために、実際、圧倒的な影響力をもっている。

メディアと政治というテーマをかかげるとき、すぐに頭に浮かぶのは、メディアがかかわる特定の政治的メッセージや政治的立場だろう。ある政治体制や政策などに対する支持であれ批判であれ、メディアの発信する内容そのものが^①そこでは問題となる。メディアというものが、その字^A通り、メッセージのなかたちとなるものとすれば、重要なのはメッセージの中味であって、そのメッセージを伝えるメディアそのものが何であるかは、その場合、副次的な意味しかもない。

^(注) マーシャル・マクルーハンのよく知られた言葉に、“The ^(注)medium is the message.”というものがある。メディアこそがメッセージである、^Bというこの表現は、メッセージとなっているのはメディアの伝える内容であるという一般的なイメージを^Bネン頭に置いたものであり、マクルーハンはそれを挑発的に否定した言い方をあえてしていることになる。ふつうはメディアの伝達内容こそがメッセージだと思われる。しかし、マクルーハンは、むしろ内容を伝達する媒体そのものがメッセージなの

だと主張しているのである。

^② これはずいぶん突飛な主張のようにもみえる。例えば、明日は晴れるという単純な情報を伝えてもらうとき、その情報の内容そのものが重要なのであって、直接会った人からそれを口頭で教えてもらうか、新聞に書いてある情報を読むか、テレビで知るか、あるいはスマホでSNSのやりとりをしているときに知るかというメディアのちがいなど、どうでもよいことかもしれない。しかし、メディアのちがいはもつと根本的な変化を人間のうちに生み出してゆく。直接に人と顔を合わせて話すること、新聞を通じてメッセージを受け取ること、テレビを見ること、SNSを通じてさまざまな人と高度な技術を^Cカイしてつながることは、それぞれまったく異なる人間の関係のあり方をもたらす。異なる時間感覚、異なる社会のあり方がそれらのメディアによって生み出されるのである。

マクルーハンにとって、歴史の過程の中で西欧近代社会というものを作り出してきた、その最もおおもとの思考の枠組みは、活版印刷という技術によって生み出されてきた。活版印刷によって大量に普及することが可能になった「書物」というメディアが、西欧近代の政治・経済・社会・文化のあらゆる領域の土台になっている。その意味では、書物に書かれている内容よりも、「書物」というメディアそのものが西欧近代の政治・経済・社会・文化を表すものになっているということだ。同じように、「テレビ」というメディアは、それまでの書物世界の価値や思考様式

を根本的に塗り替え、それまでとは異なる社会を作り出すことになった。そして「コンピュータ」やそのうえで機能する「インターネット」、またその延長線上にあるスマートフォンによるコミュニケーションは、さらに徹底的に世界の枠組みと人々の思考のあり方、生活のあり方を作りかえている。^④このような世界の根本的な変革を推し進めてきたのは、メディアによって伝達される情報よりも、むしろメディアそのものなのである。

もう一度、メディアと政治というテーマに焦点を移そう。メディアが発信する政治的メッセージはもちろん政治的にきわめて大きな力をもちうる。しかし、それとともに、あるいはそれ以上に、^⑤そこで用いられているメディアは何かということが、政治的に決定的な意味をもつ。伝達の宛先となる人の数、速さ、イメージを喚起する力は、技術性がたかまるとつれて、圧倒的に増大する。ここでは技術的な複製のもつ二つの異なる意味のうち、同じものを大量に早く生み出すということがとりわけ重要になるが、それとともに、受け手に対してイメージを喚起する力についていえば、正確なオリジナルのコピーを生み出すという機能も無関係ではない。

また、コミュニケーションの形態も、メディアの技術性によってかなりの程度条件づけられている。新聞やテレビが、少数の力を持つ者から多数の人間への一方向的な伝達形式をもつのに対して、ウェブ上では多数者が双方向的につながっているだけでなく、誰もが発信者となりうる

構造が生まれている。それ以前のメディアを特徴づけていた、発信者となるためのある種の資格が、そこには存在しない。現代では、政治家たちに対して発言するのは、政治的・経済的な有力者や知識人だけでなく、場合によっては、政治的な定見を必ずしもたない圧倒的多数のウェブ上の声のほうだが、はるかに大きな影響力をもちうる。そしてまた、そのことを意識して政治が進められてゆく。新聞の時代の政治、映画の時代の政治、テレビの時代の政治、そして^⑥インターネットの時代の政治は、すべてそれぞれ異なるメディアの特質によって、異なるものに作り上げられてきた。「メディアこそがメッセージである」という言葉は、ここでも完全にあてはまる。

やまぐちひろゆき
(山口裕之『現代メディア哲学』)

(注) マーシャル・マクルーハン——カナダ出身の英文学者・文明評論家。
medium——“media”と同じ意味。“media”は、“medium”の複数形。

問1 二重傍線部AとCの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のAとEからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

A ア 地球ギを使って学ぶ。 イ 審ギを行う。

ウ 自己ギ性の精神。 エ ギ理と人情。

B ア 馬の耳にネン仏。 イ 天ネン資源が豊富だ。

ウ ネン俸制を導入する。 エ 費用をネン出する。

C ア 一堂にカイする。 イ 一カイの市民にすぎない。

ウ 暗号をカイ読する。 エ 体力の限カイ。

問2 傍線部④はどの文節に係るか。一文節で抜き出して書きなさい。

問3 傍線部①を説明した次の文の空欄に入る適切なことばを、本文中から七字で抜き出して書きなさい。

に關する議論の場。

問4 傍線部②の理由を説明した次の文の空欄a・bに入る適切なことばを、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。ただし、aは四字、bは八字のことばとする。

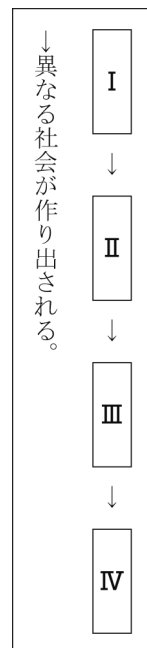
伝達において、伝達される内容はa役割を果たすにすぎない、というマクルーハンの考えは、伝達に対するbからあまりにもか

け離れているから。

問5 傍線部③が作り出される過程を、次の【図】のように整理した。

【図】の空欄IとIVに入ることばの組み合わせとして適切なものを、あとのアとEから一つ選んで、その符号を書きなさい。

【図】



A I 技術の革新 II 新たなメディアの出現

III コミュニケーションの変化 IV 思考の枠組みの転換

イ I 思考の枠組みの転換 II コミュニケーションの変化

III 技術の革新 IV 新たなメディアの出現

ウ I 技術の革新 II 新たなメディアの出現

III 思考の枠組みの転換 IV コミュニケーションの変化

エ I 思考の枠組みの転換 II 技術の革新

III 新たなメディアの出現 IV コミュニケーションの変化

問6 傍線部⑤の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 技術性の高いメディアを用いれば、人々はオリジナルのメッセージに触れることで政策を深く理解することができるため、政治に関して自分の意見を持つ人が飛躍的に増えるということ。

イ 技術性の高いメディアを用いることにより、短期間に多くの人の意見を集めることができるため、多様な考えを反映させた、極めて実現性の高い政策の立案が可能になるということ。

ウ 技術性の高いメディアを用いれば、多くの人に迫真性のある情報を一斉に伝えることができるので、訴える政策が同じ内容であっても、賛同を得る可能性が飛躍的に高まるということ。

エ 技術性の高いメディアを用いることにより、政策の内容そのものの説得力を高めることができるので、政敵が批判を大量に拡散したとしてもその影響が極めて小さくなるということ。

問7 傍線部⑥の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア インターネットの技術により、それまで政治的な発言をすることがなかった人々が匿名で意見を述べるようになり、政治家は何の資格も持たない一般人の意見を最重要視するようになった。

イ インターネットの技術が人々に広く意見表明の場をもたらし、政治に関する専門的な知識や明確な考えを持つともいえない人々の意見が、政治家の判断を左右する事態が生じるようになった。

ウ インターネットの技術によって、誰もが発信者となり得る社会が実現し、人々は、発言者が誰であるかに関係なく、政治的な主張の妥当性を発言の内容の正しさによって評価するようになった。

エ インターネットの技術は、誰もが発信者となることができる伝達の構造を生み出し、政治的な意見を持つことがなかった人々が、知識人たちの代わりに政治家に対して発言するようになった。

問8 本文に述べられている内容として適切なものを、次のア～エから

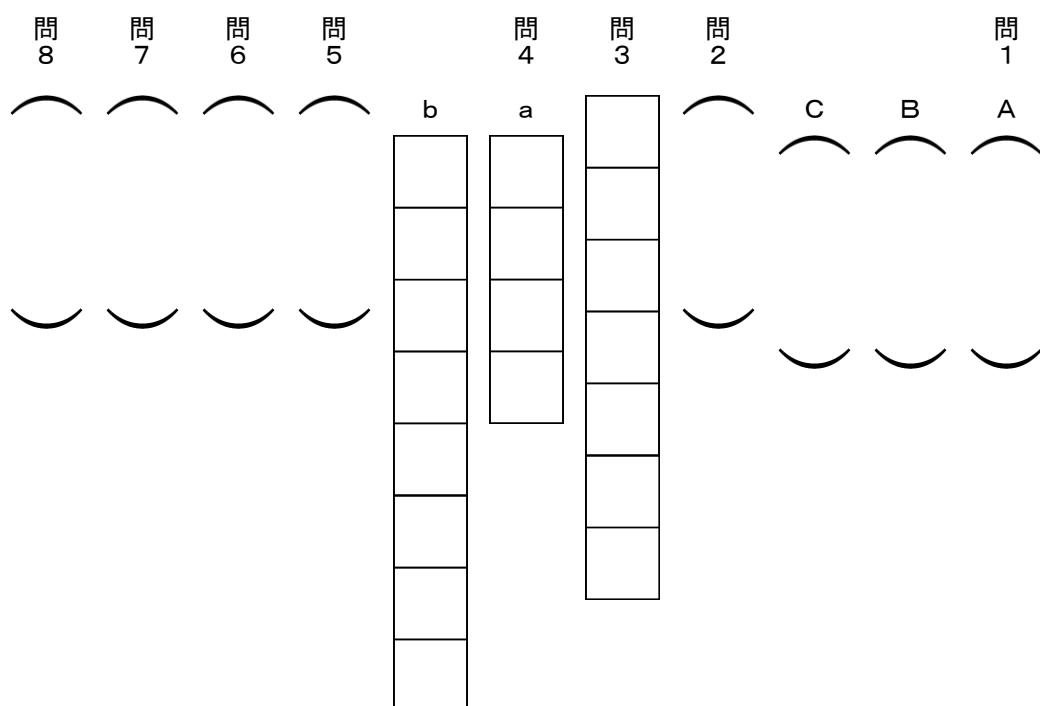
一つ選んで、その番号を書きなさい。

ア メディアが伝える政治的なメッセージは、それを伝える媒体が何であれ、メッセージを受け取る人々に対して同等の影響力を持つが、このことは、メディアによる伝達全般に当てはまる。

イ 一方向的な伝達形式を特徴とするメディアは複数あるが、発信者と受信者の関係のあり方が似たようなものとなるため、メッセージを伝えることによる社会への影響力はどれも大差ない。

ウ 情報が単純か複雑か、また政治的な場面であるかどうかを問わず、メディアによる伝達においては、多くの場合、メッセージの内容そのものよりも、伝達の形態が影響力を持つことになる。

エ 同時かつ双方向的に情報をやりとりする高度な伝達に限れば、情報を発信する行為そのものが人々の考えの形成に影響するため、メディア自体がメッセージの意味合いを持つと言える。



問 8	問 7	問 6	問 5		問 4	問 3	問 2			問 1
(ウ	(イ	(ウ	(ア	b 一般的なイメージ	a 副次的な	メディアと政治	変革を	C (イ	B (ア	A (エ
)	)	)	)					)	)	)

問1

Aは「字義」。アは「地球儀」、イは「審議」、ウは「犠牲」、エは「義理」。
Bは「念頭」。アは「念仏」、イは「天然」、ウは「年俸」、エは「捻出」。
Cは「介する」。アは「会する」、イは「二介」、ウは「解読」、エは「限界」。

問5 傍線部③と同段落に着目し、選択肢の文言に合わせて異なる社会

の形成の面から整理すると次のような流れがあることが読み取れる。

①活版印刷の技術↓「書物」や「テレビ」という新メディアの出現↓思考枠組みの転換↓「西欧近代社会（＝異なる社会）」の形成

②インターネット等によるコミュニケーションの変化↓徹底的な思考枠組みの転換↓「異なる社会」の形成

したがって、メディアに焦点を当てて、この二つの流れを組み合わせてみると、

活版印刷の技術↓「書物」や「テレビ」という新メディアの出現↓インターネット等によるコミュニケーションの変化思考枠組みの転換↓

「西欧近代社会（＝異なる社会）」の形成

となり、これと同じ流れのAが適切。

問7 それぞれの選択肢の内容を見ると、いずれの選択肢も前半が、「イ

ンターネットの技術により」「誰もが発信者となり得る」構造が生まれているという内容になっている。したがって、それぞれの後半に着目しながら間違い箇所を探して正解を求めていく。Aは「一般人の意見を最重要視するようになった」が間違い。本文中では「意識して……進められてゆく」としか述べられていない。イ「政治家の判断を左右する事態が生じるようになった」が本文の「圧倒的多数のウェブ上の声のほう……政治が進められてゆく」に合うので、適切。ウは「発

言の内容の正しさによって評価するようになった」が間違い。「用いられているメディア」によって評価するようになったのである。エは「知識人たちの代わりに」が間違い。本文には「知識人だけでなく」「政治的な定見を……圧倒的多数のウェブ上の声」とある。

問8

ポイント

アは中盤の「媒体が何であれ……メッセージを受け取る人々に対して同等の影響力を持つ」が間違い。「メディアのちがいは

もつと根本的な変化を人間のうちに生み出してゆく」とある。イは「影響力はどれも大差ない」が間違い。一方的な伝達方式のメディアである新聞やテレビでも、「同じものを大量に早く生み出すということがとりわけ重要になる」ので、これができるメディアのほうが影響力が強くなる。ウの「伝達の形態が影響力を持つことになる」ということは「メディアのちがいはもつと……生み出してゆく」それぞれ異なるメディアの特質によって、異なるものに作り上げられてきた」を表現した「メディアこそがメッセージである」の内容のことなので適切。エは「高度な伝達に限れば」が間違い。これはウェブ上の伝達のことだが、これに限らずメディア全体が人々の考えに影響するのである。